

令和8年度 第2回朝倉市まちづくり審議会

日 時 令和8年7月16日(木) 19時00分～
20時20分

場 所 本庁 3階 大会議室

出 席(委員) 出席18名、欠席4名

(朝倉市) 企画振興部長、総合政策課長、
企画政策係長、参事補佐、担当4名

(進行) 課長

1 開 会 (部長)

2 会長あいさつ

20年ぶりに筑後地域に帰って、一番驚いたのが雨の強さ。ただ、災害のリスクがあると同時に、自然の豊かさや農産物等に繋がっていることも感じた。

今回は基本構想という大枠、標語を議論していただいて、そこでの意見を反映できるものについては反映していきたい。

3 議事 (進行) 会長

(1) 第4次朝倉市総合計画 基本構想の策定について (係長)

⇒資料に沿って説明。

資料1

(委員) 住民に向けたものなのか、対外的な発信を意図したものなのか。	(事務局回答) →住民向けと対外発信の双方を意識して検討したものである。
---------------------------------------	---

(委員) 総合計画は地域住民の願いを反映するべきではないか。 サブタイトル「みずもしたたるいいところ」について、曖昧すぎではないか。「水を生み、水と暮らし、水を活かすまち」といった表現の方が分かりやすくいいと思う。	(事務局回答) →本日出された意見を持ち帰り検討する。
---	--------------------------------

(委員) 「みずもしたたる」という表現は美しい印象を与える反面、水害を経験した住民に	(事務局回答) →朝倉市では第1次計画から「水」をキーワードとしており、災害後の第2次計画策
---	---

としては綺麗ごとのように受け止められる可能性もあるのではないかな。	定時にも同様の議論が行われたこと、水は脅威にもなる一方で地域の大切な資源でもあるため、引き続き検討したい。 (会長) 「みずもしたたるいいところ」という表現は一般的ではないからこそ関心を引くキャッチフレーズになる可能性があり、対外発信を通じて住民が地域の魅力を再認識する契機にもなる。
--	---

(2) 基本目標について (係長)

⇒資料に沿って説明。

資料 2

→基本目標を6つの枠組みとすることについて承認を求める。

(委員) 第2次総合計画では9つの基本目標であったが、今回6つに整理することで削除された項目はあるのか。	(事務局回答) →第2次総合計画の9つの基本目標について説明が行われ、内容を整理・統合した結果として第3次総合計画で6つに再編した。今回はそれを踏襲している。
--	---

(委員) これまで過不足なく運用できていたから踏襲するという理解でよいかな。	(事務局回答) →そのとおり。
--	-------------------------------

⇒基本目標を6つの枠組みとすることについて承認。

⇒6つ基本目標について、基本目標ごとに委員を6班に分けてグループワークを実施。各班3～4名で構成し、現行計画に記載された背景や課題を確認したうえで、現在も継続している課題や今後さらに重点的に取り組むべき課題について意見交換を行った。

以下、グループ毎に意見交換した内容を発表していただいた。

基本目標 1

●防災・減災

- ・ 地域や行政区によって防災意識に差があるのではないかな。
- ・ 災害被害を受けた地域は防災意識が高いが、被害の少なかった地域との温度差があるのではないかな。
- ・ 地域ごとに防災士を配置できる仕組みづくりが必要ではないかな。
- ・ 防災士資格取得に対する市の助成制度をさらに周知してはどうか。
- ・ 防災行政無線が聞き取りづらい。
- ・ LINEによる情報発信は有効だが、さらに普及を進めてほしい。

- ・ 夜間に避難所開設の通知が届いても対応が難しい場合がある。
- ・ 避難情報の発信方法やタイミングの見直しが必要ではないか。

●都市基盤

- ・ コミュニティバスなど地域交通の利便性向上が必要。
- ・ 買い物弱者への対策が必要。
- ・ 移動販売の導入を検討してはどうか。
- ・ 中山間地域など交通不便地域への支援が必要。

●災害復旧

- ・ 29年災害以降の災害（令和5年？）に対する復旧工事が引き続き必要。
- ・ 人口減少や集落縮小が進む地域でも従来どおり復旧工事を行うべきか検討が必要。
- ・ 復旧後の地域の将来像も併せて議論する必要がある。

基本目標2

●高齢者福祉

- ・ 高齢者人口が非常に多く、高齢者を支える仕組みが必要。
- ・ 高齢化に伴い移動手段の確保が課題となっている。交通弱者・交通難民への対応が必要。
- ・ コミュニティバスはルートが固定されたりして利用しづらい面がある。
- ・ AI 技術を活用したシェアライド等、新しい交通サービスの導入を検討してはどうか。

●子育て、少子化

- ・ 少子化が進行している。
- ・ 若者人口が減少している。
- ・ 市内の産婦人科が1か所のみとなっており、出産環境への不安がある。
- ・ 安心して出産できる医療体制の確保が必要。

●子どもの育ち・教育環境

- ・ 子どもが屋外で遊ぶ姿を見かけなくなった。
- ・ 子どもの遊び場が不足しているのではないか。
- ・ 公園利用に対する苦情等があり、遊びにくい環境もある。
- ・ 子どもが安心して遊べる場所や環境づくりが必要。
- ・ 人口が特定地域に集中している。
- ・ 地域によって子どもの数に偏りがあり、特定の地域に集中している。一方で、小規模校では子どもたちがのびのびと学校生活を送っている印象がある。
- ・ 私立校のように特色ある学校がない。
- ・ 定員割れとなっている高校があり、生徒数の減少が課題となっている。私立高校授業料支援制度の拡充も、その要因の一つではないか。
- ・ 特色ある学校づくりが必要。

基本目標3

●環境保全

- ・ 「水」をテーマとした基本構想の内容が環境分野に十分反映されていないように感じる。背景・課題に水に関する部分がない。「水」に関する取組や資源をより明確に位置付けるべき。

- ・ 生物多様性に関する記述が分かりにくい。
- ・ 希少生物（朝倉であればスイゼンジノリ等）を守っていないといけない等を入れると生物多様性につながりやすいのではないか。

●脱炭素・生活環境

- ・ 生活環境保全への取組を継続する必要がある。
- ・ 脱炭素社会の実現に向けた取組が重要。
- ・ 浄化槽や脱炭素社会への取組を計画に反映してはどうか。

●環境教育・啓発

- ・ 市民一人ひとりが環境問題をどの程度自分事として捉えているか分からない。
- ・ 環境問題に関する啓発の強化が必要（重要課題と認識させる）。
- ・ 学校教育などを通じた環境教育の充実を検討してはどうか。

基本目標 4

●農林業

- ・ 農林業の担い手不足。
- ・ 農林道整備や災害復旧事業の継続が必要。
- ・ アライグマ等を含む獣害対策を計画へ位置付けてはどうか。
- ・ 若年層向けの農業体験事業を充実させてはどうか。
- ・ 農業への関心を高める機会づくりが必要。

●商工業

- ・ 企業誘致の推進が必要。
- ・ 創業支援の継続が必要。
- ・ 3つのインターチェンジを活かした企業誘致。
- ・ DX 支援の推進。
- ・ 物価高騰対策への支援。

●観光

- ・ コロナ禍のみを前提とした現計画の記載になっていたため見直しが必要。
- ・ 秋月の桜や紅葉などの観光資源をさらに活用すべき。
- ・ 閑散期に営業していない店舗が目立つ。
- ・ 災害の経験を学ぶ「災害ツーリズム」を検討してはどうか。

基本目標 5

●学校教育

- ・ 朝倉を離れる若者が多い（高校→大学、高校→就職のとき）。
- ・ 将来的なUターンにつながる取組が必要。
- ・ 周辺部の学校の魅力発信を強化すべき。
- ・ SNS 利用に関する教育が必要。
- ・ 「地域に開かれた学校」という表現を見直し、地域と学校の連携を明確にしてはどうか。
- ・ 若者が戻ってくるために、ふるさと学習を強化してほしい。
- ・ 大規模校と小規模校をオンラインで結ぶ学習環境を構築してはどうか。
- ・ AI 活用教育や指導者育成を進める必要がある。

●生涯学習

- ・若い世代が生涯学習に参加する機会が少ない。
- ・体育館の空調整備を継続してほしい。
- ・空き施設や杷木支所の空きスペースを生涯学習に活用してはどうか。
- ・講座や学習会を中心部だけでなく周辺地域でも実施してほしい。

●文化・歴史

- ・祭りや伝統文化の担い手が高齢化している。携わる人が少ない。
- ・文化活動の継承が課題となっている。

基本目標6

●人権・男女共同参画

- ・男女共同参画の取組を継続する必要がある。
- ・外国人との共生を引き続き進める必要がある。
- ・LGBTQ への理解や配慮を計画へ位置付けてはどうか。
- ・特別支援学級の増加や支援体制への配慮を追加してはどうか。
- ・共働き家庭の増加を踏まえた祖父母世代への支援や学習機会が必要？
- ・共働き家庭の増加で、祖父母が孫の面倒をみることで、祖父母世代の男女役割分担意識が孫に伝わっている時がある？

●地域コミュニティ

- ・地域コミュニティの維持が年々難しくなっている。
- ・働き方の多様化により地域活動への参加が難しくなっている。
- ・インターネット環境の整備をさらに進めるべき。

●行財政運営

- ・行政サービスの効率化が必要。
- ・限られた財源や人員の中で持続可能な行政運営が求められる。
- ・行政サービスのデジタル化・DXを推進すべき（効率化）。
- ・人口減少を前提とした「選択と集中」の視点を持つべき。
- ・成長のみを目標にするのではなく、持続可能な規模での行政運営を検討すべき。

4 その他

次回開催予定 令和8年8月予定

5 閉 会